

IV-1-2 東北

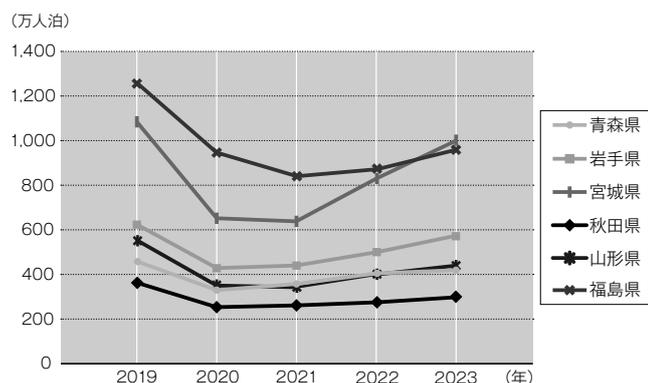
延べ宿泊者数はインバウンドが急回復
夏祭りは4年ぶりに完全な形で通常開催
福島「いわき七浜海道」サイクリングでの観光振興が進む

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2023年1月から12月の東北地方の延べ宿泊者数は前年比13.5%増の3,758万人泊となり、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大による影響からの回復途上にあった(図IV-1-2-1)。ただし、2019年比では14.0%減であり、コロナ禍前の水準には至っていない。県別に見ると、青森県が2019年比4.6%減とほぼコロナ禍前の水準に戻っている一方、福島県(23.5%減)や山形県(18.0%減)、秋田県(17.9%減)は回復が比較的遅い傾向にある。

外国人延べ宿泊者数は前年比662.6%増の156万人泊となり、新型コロナウイルス感染症拡大による影響から急回復した年となった。2019年比では15.7%減と、コロナ禍前の水準には至っていないものの、日本人延べ宿泊者数の回復状況とほぼ同じ水準となっている(図IV-1-2-2)。県別に見ると、2019年比で福島県が0.7%減、次いで宮城県が6.6%減とほぼコロナ禍前の水準に戻っている一方、秋田県(31.4%減)や青森県(25.6%減)、山形県(23.6%減)は回復が比較的遅い傾向にある。

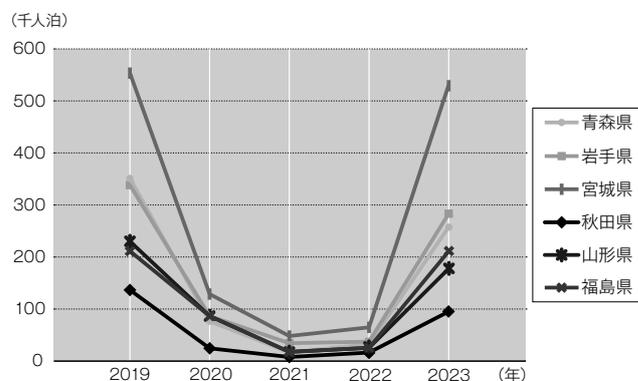
図IV-1-2-1 延べ宿泊者数の推移(東北)



| 都道府県名 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 青森県 | 461 | 332 | 360 | 408 | 439 |
| 岩手県 | 628 | 431 | 443 | 504 | 586 |
| 宮城県 | 1,093 | 657 | 643 | 838 | 1,007 |
| 秋田県 | 365 | 255 | 263 | 277 | 300 |
| 山形県 | 557 | 351 | 345 | 404 | 457 |
| 福島県 | 1,266 | 954 | 847 | 879 | 969 |

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-1-2-2 外国人延べ宿泊者数の推移(東北)



| 都道府県名 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 青森県 | 357 | 78 | 17 | 33 | 265 |
| 岩手県 | 344 | 88 | 18 | 26 | 283 |
| 宮城県 | 563 | 131 | 49 | 66 | 526 |
| 秋田県 | 139 | 25 | 8 | 16 | 96 |
| 山形県 | 234 | 87 | 16 | 26 | 179 |
| 福島県 | 215 | 88 | 35 | 38 | 213 |

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

● 東北の祭りの動向

2023年の東北各県の代表的な夏祭りは、4年ぶりにコロナ禍による制限のない通常開催となった(表IV-1-2-1)。「青森ねぶた祭」は、4年ぶりに踊り手である「ハネト」の自由参加が認められた。前年に引き続き、100万円のプレミアム観覧席が販売されたが、予約開始から2日目で完売となった。2023年の参加者数は101万人と、コロナ禍前(2019年285万人)よりも大幅に少ない数字となっているが、2023年より来場者数の計測方法を変更したため、前年までの数値とは単純に比較できない点に留意が必要である。「盛岡さんさ踊り」は、パレード終了後、自由に飛び入り参加ができる「大輪踊り」が4年ぶりに復活した。「仙台七夕まつり」は、前年まで見物客が接触しないよう七夕飾りを高さ2m以上に飾り付ける対策を行っていたが、2023年は廃止され、手の届く高さに設置された。「秋田竿燈まつり」は、7月の大雨による浸水で準備に影響が生じたものの通常開催にこぎつけ、4年ぶりに掛け声が復活し、観客が竿燈に触れられる「ふれあい竿燈」も実施された。「山形花笠まつり」は、パレードのゴール前で飛び入り参加ができるコーナーや、「昼の花笠踊り」等の催しが復活した。「福島わらじまつり」は、輪になって踊る「輪おどり」が復活し、従来どおりの開催となった。

2023年の「東北絆まつり」は、6月8・9日の2日間にわたって仙台市で開催された(表IV-1-2-2)。パレードのほか、航空自衛隊「ブルーインパルス」の展示飛行等も行われた。来場者数は、前回仙台市で開催された2017年の45万人を大きく上回る57万人となり、過去最高を記録した。

表Ⅳ-1-2-1 東北夏祭りの来場者数

| 祭事名 | 開催地 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 青森ねぶた祭 | 青森県青森市 | 269万人 | 276万人 | 282万人 | 280万人 | 285万人 | 中止 | オンライン | 105万人 | 101万人* |
| 盛岡さんさ踊り | 岩手県盛岡市 | 139万人 | 126万人 | 134万人 | 133万人 | 149万人 | 中止 | 中止 | 54万人 | 114万人 |
| 仙台七夕まつり | 宮城県仙台市 | 218万人 | 228万人 | 179万人 | 203万人 | 225万人 | 中止 | 134万人 | 225万人 | 227万人 |
| 秋田竿燈まつり | 秋田県秋田市 | 140万人 | 132万人 | 131万人 | 130万人 | 131万人 | 中止 | 中止 | 78万人 | 110万人 |
| 山形花笠まつり | 山形県山形市 | 98万人 | 100万人 | 99万人 | 97万人 | 98万人 | 中止 | 規模縮小 | 56万人 | 80万人 |
| 福島わらじまつり | 福島県福島市 | 26万人 | 26万人 | 28万人 | 29万人 | 30万人 | 中止 | オンライン | 28万人 | 30万人 |

*青森ねぶた祭は、2023年より来場者数の計測方法を変更したため、前年までの数字と単純に比較することができない
資料:各種資料をもとに(公財)日本交通公社作成

表Ⅳ-1-2-2 東北絆まつりの開催概要

| | 東北絆まつり | | | | | |
|------|------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|
| | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
| 開催地 | 福島県福島市 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 | 山形県山形市 | 秋田県秋田市 | 青森県青森市 | 宮城県仙台市 |
| 開催日程 | 6月1日(土) 2日(日) | | 5月22日(土) 23日(日) | 5月28日(土) 29日(日) | 6月17日(土) 18日(日) | 6月8日(土) 9日(日) |
| 来場者数 | 約31万人 | | — | 約11万人 | 約29万人 | 約57万人 |
| 経済効果 | 約42億円 | | — | 約28億円 | — | — |

資料:各種資料をもとに(公財)日本交通公社作成

●「青森県観光戦略」を策定

青森県観光国際戦略推進本部は、2024年3月に「青森県観光戦略」を策定した。2028年の将来ビジョンとして「観光産業が基幹産業として地域経済を力強くけん引している状態」、「『訪れる人』『働く人』『地域の人』が幸せを感じる地域」等を掲げ、「持続可能な観光の確立」、「観光消費額の拡大」、「連泊の推進」を達成するための5つのプロジェクトを進める。プロジェクトには、観光の付加価値を向上させるためのコンテンツ整備、二次交通の充実、観光DXの推進、青森観光のブランドイメージの向上、青森ファンを増やすためのファンマーケティング、近隣道県からの誘客促進、MICE・教育旅行の誘致等が盛り込まれた。

●「みちのく岩手観光立県第4期基本計画」を策定(岩手県)

岩手県は、2024年から2028年までを計画期間とする「みちのく岩手観光立県第4期基本計画」を策定した。推進方策としては、「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」のために持続可能な観光を推進することで、交流人口・関係人口の拡大と観光産業を基幹産業へ成長させること、「地域経済の活性化」のために「外国人観光客の誘客拡大」、「魅力的な観光地域づくりの推進」、「周遊・滞在型観光の推進」、「観光DXによる観光推進体制の強化」を進めること等が盛り込まれた。また、「地域の特色を生かした観光地域づくり」を進めるため、県内4地域(広域振興圏)別の取り組み内容を整理している。

②広域・市区町村レベル

●観光ビジョン・計画等の策定(表Ⅳ-1-2-3)

秋田県にかほ市は2023年4月に「にかほ市シティプロモーション戦略」を策定した。シティプロモーションの施策を重視することを示した「第2次にかほ市総合発展計画」の下位計画として位置付けられている。シティプロモーションは、にかほ市を「訪れたい」「住みたい」「住み続けたい」まちにすることを目的としており、これらに紐づくコンセプトと、具体

的な情報発信方法や運用方法を、消費者の行動モデルである「AISAS」をベースに整理している。

山形県寒河江市は2023年11月に同市で初めての観光計画となる「寒河江市観光振興計画」を策定した。目指す将来像を「SAKURANBO ツーリズム～体験型観光の先進地～」として掲げ、「さくらんぼを核としたフルーツによる誘客事業の展開」として「特産品等を活用した観光コンテンツの磨き上げと満足度向上を図る観光施設の整備」を行うほか、「体験・テーマ型観光による観光誘客の促進」、「インバウンド・広域観光の強化と観光ニーズの把握」を進める。

山形県西川町は2024年3月に「西川町観光戦略ブック2024」を策定した。コンセプトとして“自然体のまちなちで自然体になれるまち”、観光ビジョンとして“持続可能な観光地域”を掲げ、4つの誘客ターゲット「ターゲットA:すでに西川町に来訪している層」、「B:アクティブな若者層」、「C:情緒的価値を重視する層」、「D:雪への憧れ、雪遊びへの願望が強い層」ごとに、活かす地域資源と重点施策、実行内容を整理している。

このほか、岩手県岩泉町、宮城県松島町、秋田県仙北市、秋田県八峰町、山形県鶴岡市、山形県河北町、福島県南会津地域等も観光ビジョン・計画等の策定・改定を行っている。

●観光地域づくり法人(DMO)の新規登録と取り消し

2023年6月から2024年6月までの間に、登録DMOとしては2023年9月に一般財団法人酒田DMO、2024年3月に遠野ふるさと商社が地域DMOとして登録された。同じく2024年3月に、これまで地域DMOであった一般社団法人男鹿市観光協会に代わり、おが地域振興公社が地域DMOとして登録された。これにより男鹿市観光協会は登録取り消しが行われた。同じく、2024年3月に公益社団法人宮城県観光連盟が地域連携DMOとして登録された。候補DMOとしては2023年9月に一般社団法人大船渡地域戦略が地域DMOとして登録された。

表IV-1-2-3 市町村で策定された観光ビジョン・計画

| 策定期期 | 市町村 | 計画名 | 概要 |
|----------|------------------------------------|--------------------|---|
| 2024年3月 | 岩手県 岩泉町 | 岩泉町観光振興計画 | 基本方針として龍泉洞園地周辺の活用や、「ふれあいランド岩泉」の再整備等の具体的ハード整備のほか、訪日外国人旅行者の受け入れ体制整備、新たなツアープログラムの整備、デジタルを活用したプロモーション等を示した。 |
| 2024年3月 | 宮城県 松島町 | 松島町観光振興計画 (改訂版) | “三方良しの「力強い松島」の実現”をコンセプトに、4つの基本方針ごとにメインターゲット「松島を初めて訪れる観光客」、「松島を複数回訪れる観光客」、「訪日外国人旅行者」、「地域の住民・事業者」を定めて、基本施策・基本事業等を整理して示した。 |
| 2023年4月 | 秋田県 にかほ市 | にかほ市シティプロモーション戦略 | 「第2回にかほ市総合発展計画」において、シティプロモーションの施策を重視するとして策定。シティプロモーションは、にかほ市を“訪れたい”“住みたい”“住み続けたい”“まち”にすることを目的としており、これらに紐づくコンセプトと、具体的な情報発信方法と運用方法を示した。 |
| 2023年9月 | 秋田県 仙北市 | 第3次仙北市観光振興計画 | 計画の理念として「観光を通じた市民の幸福度向上」、「観光客の満足度向上」、「持続可能な観光マネジメントの確立」を掲げ、7つの取り組み方針に基づくアクションプランを示した。第2次計画における49件の取り組みの評価と改善点を踏まえて策定された。 |
| 2023年6月 | 秋田県 八峰町 | 御所の台エリア再構築構想 | 道の駅「はちもり」を、宿泊・産直・自然体験機能を有する施設や「あきた白神体験センター」等が集積している御所の台エリアに移転し、エリア全体の魅力向上を図るための構想。「白神山地の豊かな恵みを活かした交流ターミナルの創出」を目指し、移転を契機とした既存施設の機能拡充や、企業等との連携強化を行う。 |
| 2024年3月 | 山形県 鶴岡市 | 鶴岡市中長期観光戦略プラン | 課題の分析から、「域内ネットワークの強化」、「広域ネットワークの構築」、「ITネットワークの駆使」、「適切な推進体制」が必要であるとし、それに紐付いた戦略や施策を整理。 |
| 2023年11月 | 山形県 寒河江市 | 寒河江市観光振興計画 | 寒河江市で初めて策定する観光計画。目指す将来像を“SAKURANBO ツーリズム～体験型観光の先進地～”として掲げ、「さくらんぼを核としたフルーツによる誘客事業の展開」、「体験・テーマ型観光による観光誘客の促進」、「インバウンド・広域観光の強化と観光ニーズの把握」を図るとしている。 |
| 2024年3月 | 山形県 河北町 | 第三次河北町観光振興計画 | まちづくりのコンセプトである“誰とべに花の里”を基本方針とし、7つの戦略「観光資源の保全・活用戦略」、「観光ルート・交通戦略」、「観光基盤整備戦略」、「広域連携戦略」、「おもてなし戦略」、「新たな観光資源の活用・発掘戦略」、「情報発信と収集・宣伝戦略」ごとに施策を示した。 |
| 2024年3月 | 山形県 西川町 | 西川町観光戦略ブック2024 | 観光ビジョンとして“持続可能な観光地域”を掲げ、4つの誘客ターゲット「ターゲットA：すでに西川町に訪れている層」、「B：アクティブな若者層」、「C：情緒的価値を重視する層」、「D：雪への憧れ、雪遊びへの願望が強い層」を設定。ターゲットごとに、活かす地域資源と重点施策、実行内容を整理している。 |
| 2024年1月 | 福島県 南会津地域 (下郷町、南会津町、只見町、楡枝村) | 福島県南会津地域観光振興ビジョン | “旅先として選ばれる、南会津”を目指す姿として、「これまで観光と関わりが少なかった農業や地場産業、暮らし等、地域に眠る資源の掘り起こしや磨き上げ」や「旅行者との交流を通して、地域住民が改めて地域の魅力や価値を再認識し、地域に対する誇りや愛着を醸成することで、住民主体による地域づくりや魅力向上の取り組み」を行うとしている。 |

資料：各市町村のウェブサイトをもとに(公財)日本交通公社作成

●青森駅東口ビルが新たにオープン(青森県)

新しいJR青森駅東口ビルが2024年4月にオープンした。2021年3月に60年間利用してきた4代目駅舎を解体し、跡地に新たな駅ビルの建設が進められてきた。建物は10階建てで、1～3階には商業施設「&LOVINA」(アンドラピナ)、4階には世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力に関する情報発信を行う「あおり縄文ステーション じょもじょも」がオープンした。4階と6～10階には、ウェルネスをテーマとしたホテル「ReLabo」(リラボ)が2024年7月に開業した。同ホテルは、青森市内で病院や介護施設等を運営する一般社団法人慈恵会と、宿泊施設等を運営する城ヶ倉観光が運営を行う。さらに、従来の駅ビル「LOVINA」も2024年7月にリニューアルオープンを迎え、青森駅東口の空間は一挙に大きく変貌した。

●青森市が発注する業務で旅行会社による談合が発生(青森県)

公正取引委員会は2024年5月、青森市の指名競争入札において談合があったとして、JTB、東武トップツアーズ、名鉄観光サービス、日本旅行東北の4社に対して独占禁止法に基づく排除措置命令を行った。4社と近畿日本ツーリストは、2022年から2023年にかけて青森市が発注した新型コロナウイルス感染症患者の移送業務において、談合に関わったと認定された。なお、近畿日本ツーリストは公正取引委員会の調査前に自ら違反を申告したため処分対象から外れた。これを受けて、青

森市は、排除措置命令を受けた4社に対して、9か月から18か月の指名停止処分とした。加えて、県や県内複数の市町村のほか、県外の自治体でも指名停止処分の動きが広がった。一方、公正取引委員会は発注した市にも不適切な対応があったとして、改善要請を行った。

●NYタイムズ紙「2023年に行くべき52か所」に盛岡選出(岩手県)

アメリカのニューヨーク・タイムズ紙が2023年1月に発表した「2023年に行くべき52か所」に盛岡市が選出された。記事では、盛岡城跡公園や中津川のほか、喫茶店やカフェ、書店等、生活者目線での盛岡の魅力が紹介された。これを受けて、市内ではさまざまな動きや影響が広がった。多くのメディアが全国的に報じたほか、動画投稿サイト等でも、市の魅力を紹介する動画等が多く投稿された。市内では、記事で紹介された喫茶店のオンライン注文が急増する等、一部で大きな影響が出た。市では、特設ウェブサイトの開設や、英語でのSNS発信を開始したほか、記事の掲載効果を維持・発展させるための施策の検討を開始した。

いわぎんリサーチ&コンサルティングは、外国人観光客の増加による2023年度の経済効果を約98億円と推計している。

●仙台で「ポケモン GO」のリアルイベント開催(宮城県)

2024年5月30日から4日間、仙台市で「Pokémon GO Fest 2024」が開催された。「Pokémon GO Fest」は、スマートフォンゲーム「ポケモン GO」のイベントで、世界各地で毎年開催されている。2024年は仙台市のほか、スペイン・マドリッドとアメリカ・ニューヨークでも開催された。仙台のメイン会場は泉区の七北田公園で、入場チケットを購入すると、参加者は会場内で珍しいポケモンをゲットできる。国内外から多くの参加者が訪れ、チケットの売上枚数は68,000枚以上、期間中に「ポケモン GO」をプレイした人数は26万人以上とされている。

イベント期間中、市とイベント主催者とのさまざまなコラボレーション企画が実施された。ゲームをプレイしながらまち歩きを楽しんでもらうため、珍しいポケモンと出会える「ポケモン GO」公式ルートとして、広瀬川や仙台城跡、秋保・作並温泉等、10ルートが設定された。このほか、観光シティーレープバス「るーぶる仙台」の特別仕様での運行と、地下鉄とあわせて一日乗車券の発売、商店街61店舗で「ポケモン GO」のゲーム画面を提示すると限定シールがプレゼントされる「お買い物キャンペーン」等が開催された。期間中、青葉区中心商店街の通行量は通常時の2~3倍になる等、市内では大きな賑わいが見られた。

●秋田県や岩手県で「旅先納税」の動きが広がる

旅先でふるさと納税を行う「旅先納税」の導入が、秋田県や岩手県で広がった。「旅先納税」は、旅先で寄付をすると、その場で、宿泊施設や飲食店、レジャー施設、土産物店等で使える電子ギフトが返礼品として贈られるもの。ふるさと納税制度を活用した仕組みで、ギフトの登録商標である。2022年に秋田県男鹿市と仙北市、2023年に秋田県大館市、2024年には岩手県花巻市と盛岡市が導入を始めたほか、2024年8月時点では、青森県十和田市も導入の検討をしている。

●「ニカホアウトドアベース」が誕生(秋田県)

2024年6月、秋田県にかほ市の道の駅「象潟 ねむの丘」に、アウトドアアクティビティ拠点施設「ニカホアウトドアベース」が誕生した。施設には、東北最大級のモンベル直営店が入居したほか、クライミング体験ができる人工岩や、E-バイク(電動アシスト付きのマウンテンバイク)やアウトドア用品の貸し出し機能、鳥海山周辺の観光情報発信機能を有するビジターセンターが併設された。同施設を中心に、鳥海山等、地元の自然アクティビティの振興を図る。

同施設は、にかほ市がモンベルと提携して整備を進めてきた。2019年に包括連携協定を結び、市のアウトドア全体構想の策定をモンベルに委託した。これにより策定された「にかほ市アウトドアランドデザイン」に基づき、施設整備が進められてきた。総事業費約10億7,000万円のうち、市は約6億1,500万円を負担している。

今後は、同施設から約5キロメートル北に位置する竹嶋潟も観光コースの一部として整備を進める。老朽化したほとりの艇庫を建て替えることで、カヌーやカヤック体験等を中心に観光振興を図るほか、同エリアに整備されたスケートボードが楽しめ

る「竹嶋潟スケートパーク」等とあわせて利便性の向上を図る。

●JR会津柳津駅がリニューアルオープン(福島県)

JR只見線の会津柳津駅舎が2024年4月に柳津町会津柳津駅舎情報発信交流施設としてリニューアルオープンし、観光案内窓口、特産品・赤べこの工房、カフェ等が併設された。赤べこの工房では、地域おこし協力隊員が赤べこ等の工芸品を制作しており、観光客は絵付けの体験等を楽しむことができる。元々は無人駅だったが、今後は、駅を中心とした地域の観光まちづくりの拠点としての機能が期待されている。駅舎は、2023年4月にJR東日本から柳津町に無償譲渡されたもので、町が改修工事を進めてきた。オープン前日には現地で式典が行われた。

また、2024年7月には、同町内の道の駅「会津柳津」に、越後三山只見国定公園の魅力を発信する「奥会津ビジターセンター」もオープンしている。

●「いわき七浜海道」サイクリングでの観光振興進む(福島県)

2021年に全線開通した復興サイクリングロード「いわき七浜海道」を活用した観光振興が進んでいる。「いわき七浜海道」は、既存の道路を活用して自転車走行空間として整備したサイクリングロードで、いわき市の勿来から久之浜防災緑地までの約53キロメートルを結んでいる。

2022年からは大学自転車部の合宿受け入れが始まった。福島県は大学の自転車部合宿誘致への取り組みをはじめ、首都圏強豪校を中心に受け入れ実績を増やしてきた。また県は、「自転車活用推進計画」に基づき、「いわき七浜街道」を含む68キロメートルを、いわき地域の広域サイクリングルートとして、2023年1月に設定した。さらに、2023年12月には福島復興サイクルロードレースシリーズ「浜街道ライドイベント」が開催されたほか、2024年9月にはコースの大部分が浜街道となるロードレースイベント「ツール・ド・ふくしま」が初開催される予定となっている。

(川村竜之介)